

僕が寝屋川高校定時制に入学した理由は、三つあります。

一つ目は、昼間に働く必要があったからです。

二つ目は、中学校があまり楽しくなかったので、昼間の学校ではなく夜の学校に通うことで、環境を大きく変えたかったからです。

三つ目は、兄が寝屋定に通っており、とても良い学校だと聞いていたからです。

寝屋定での学校生活は、期待していた通り、とても楽しいものでした。入学して間もないころは、あまり学校の人と喋らなかったのですが、一年生の四月の遠足で一気に友達が増えました。それからは学校に通うことが本当に楽しくなりました。友達だけではなく、先生とも仲良くなり、何でも話し合えたり相談できるような人が、寝屋定にたくさんできました。

また、友達に誘われて野球部に入部し、それまでやったことのない野球に熱中しました。それだけではなく、学校外でボクシングを始め、プロのボクサーになりたいという目標もでき、中学校での生活と大きく違うような、とても充実した毎日を送っていました。

このように学校生活では友達や先生に恵まれ、充実していたのですが、毎日毎日、仕事と家事に追われながら登校していたので、寝る暇も無いような生活が続き、体重が六十キロも落ちてしまいました。

肉体的にも、精神的にも辛い日々が続きました。

さらに、二千十六年の十二月、僕はトラックに轢かれ、大怪我をしてしまいました。命には別状は無かったのですが、もう野球をすることも、ボクシングをすることもできないと医者に言われ、目の前が真っ暗になりました。本当に落ち込みました。

ですが僕はプロボクサーになるという目標を捨てていません。今はまだ完治していませんが、必ず復帰してみせます。そして、これからも前を向いて生きていこうと思っています。

僕が寝屋定での四年間で学んだことをふまえて、後輩の皆さんに伝えたいことが二つあります。一つ目は、「しんどい中でも、必ず這い上がるチャンスがある」ということです。仕事や家事に忙しい毎日でしたが、ボクシングの大会で良い結果を残すことができ、また、定時制高校の秋季発表大会の生活体験発表で入賞し、東京で行われた全国大会にも出場することができました。たとえ苦しくても下を向かず、何かに挑み続けることが大事です。僕はそう思います。

二つ目は「人を頼って欲しい」ということです。僕は苦しいことがあっても、友達や先生にたくさん助

けてもらいました。何でも一人で抱え込まずに、時には人の優しさに甘えて、皆で辛い日々を乗り越えてください。

最後に、この場をお借りして、友達、先生、そして家族へ、感謝の言葉を伝えたいと思います。

友達へ

みんなのおかげでこの四年を乗り越え卒業できたと思います。

心配させて迷惑かけまくったけど、それに付き合ってくれてありがとう。みんなには今までの自分に無かった大切なものをもらえました。それは笑顔です。この四年でどんなに苦しくてしんどいときも、みんなを見てたり話したりすると、自然と笑うことができました。

俺に笑顔をくれてほんまにありがとう。みんながいなければ、僕はここにいなかったと思います。これからはそれぞれ違う道に行くけど、皆笑顔を忘れず困ったときはいつでも相談しあって頑張っていきましょう。

先生へ

入学したとき、先生だけは信用せんとうと思っていました。しかし寝屋定の先生たちはとても親身になって話を聞いてくれたり、友達のように接してくれ、絶対見捨てようとはしませんでした。

激瘦せしたとき、皆勤賞が途切れたとき、そして今回の大事故。医者に治るかわからないと言われても、先生たちだけはお見舞いに来てくれたり、「絶対治るから大丈夫やで」と言ってくれました。

今回こそもうあかんやろなって時も必ず助けに来てくれ、僕に元気をくれました。めっちゃ迷惑かけたけど本当に学校、そして先生たちが大好きになれました。先生たちのおかげで、自分なりに成長できたと思います。でもこれからさらに成長していく姿を見せることが先生たちに対する最大の恩返しだと思っています。

この四年の忘れることのできない経験を次のステップに活かし、先生たちみたいに人間的にも大きくなり、胸を張って生きていこうと思います。四年間、本当にお世話になりました。

家族へ

まず父へ

自分で仕事をするまで親父が稼ぐのが当たり前と思い、何も考えないで普段生活してたけど、お金を稼ぐことがどれだけ大変かわかりました。普段は照れくさくて言えないのでこの場を借りて言わせてもらいます。いつもご苦労様です。生意気な自分ですが、これからもよろしくお願いします。

そして母へ

身体を壊してまで自分たちを育ててくれて本当にありがとうございます。医者にもう助からないと言われても決してあきらめず何度も立ち上がり自分に大きな背中を見せてくれた母を誇りに思います。どれだけ辛くしんどいときでも自分たちに心配をかけまいと笑ってくれている、頑張ってくれている母を見て自分も負けていたらアカンと頑張ることができました。

「毎日が勉強」「無知の知になりなさい」「辛くしんどいときこそ笑う努力をなさい」。最初は何を言っているのかわからなかったけど、今は胸をはって皆にも言うことができます。

自分を産んでくれ、夢に出合わせてくれた母に感謝します。

寝屋川高校の益々のご発展と、お世話になった先生方、そして在校生の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

平成二十九年三月一日

卒業生代表